

# みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 1,060人(令和3年7月16日現在)

アンケート回答者数 609人(回収率57.5%)

調査実施期間 令和3年7月下旬～9月下旬

アンケート回答者属性

年代別内訳

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
10	28	73	120	150	178	46	4

宮城県の居住年数

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
9	14	49	534	3

年代別アンケート回収率

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
31.3%	44.4%	53.7%	62.8%	63.0%	63.1%	41.1%

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※年代別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。

なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

## 《結果概要》

○回答者の51.4%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じているが、昨年度と比べて4.0ポイント減少した(問1)。

○食の安全性について、最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「環境汚染物質」、「残留農薬」の順となった(問4)。

○食の安全性を確保するための各取組について、回答者の重要度と満足度の差が一番大きい取組は、昨年度と同様で「生産者の取組への支援」であった(問5)。

○食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者の重要度と満足度の差が一番大きい取組は、昨年度と同様で「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であった(問6)。

○県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分満足」または「おおむね満足」とした回答者は合わせて62.0%であり、昨年度と比べて3.5ポイント増加した(問8)。

○農産物の購入時における県産品の購入について、「宮城県産品を購入している」(26.5%)または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」(63.8%)とした回答者は合わせて90.3%となった(問11)。

○放射性物質については、「非常に気にしている」(10.9%)、「ある程度気にしている」(43.6%)を合わせた54.5%の回答者が気にしており、昨年度と比べて10.2ポイント減少した(問14)。

○食品中の放射性物質について、現在不安を感じているものは、昨年度と異なり「きのこ・山菜類」が最もポイントが高く、次いで「魚介類」、「ジビエ(野生鳥獣肉)」の順となった(問17)。

○食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組として必要と思うものは、「検査状況や結果のわかりやすい公表」が74.2%で最も回答者が多かった(問19)。

○「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について期待することは、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」が72.2%で最も回答者が多かった(問21)。

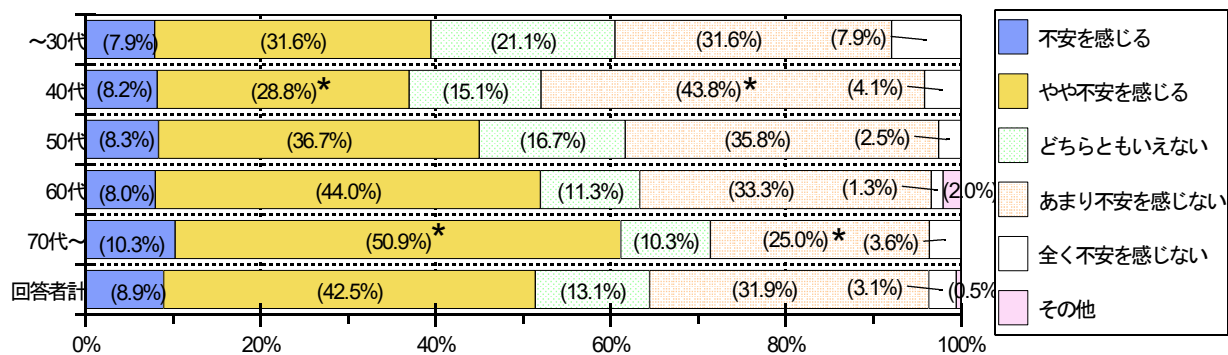
問1 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

- |              |             |             |
|--------------|-------------|-------------|
| 1 不安を感じる     | 2 やや不安を感じる  | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり不安を感じない | 5 全く不安を感じない | 6 その他       |

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(8.9%)、「やや不安を感じる」(42.5%)を合わせて51.4%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ4.0ポイント減少している。

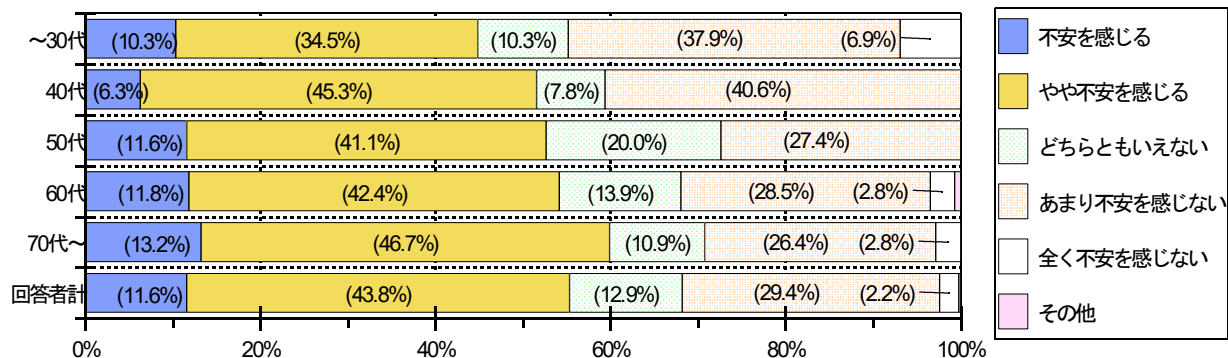
また、「あまり不安を感じない」(31.9%)、「全く不安を感じない」(3.1%)を合わせて35.0%の回答者が不安を感じておらず、昨年度と比べ3.4ポイント増加した。

年代別では、「やや不安を感じる」及び「あまり不安を感じない」の項目で有意差が見られた。)「やや不安を感じる」の項目では、40代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。一方で「あまり不安を感じない」の項目では、40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



R3 食の安全安心全般についての不安 (年代別)

\* 有意差あり (p<0.05)



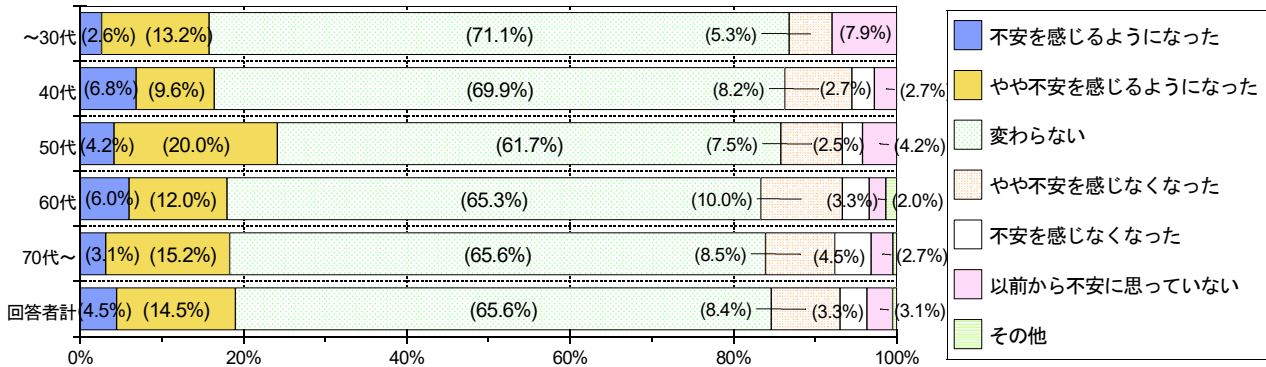
R2 食の安全安心全般についての不安 (年代別)

問2 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

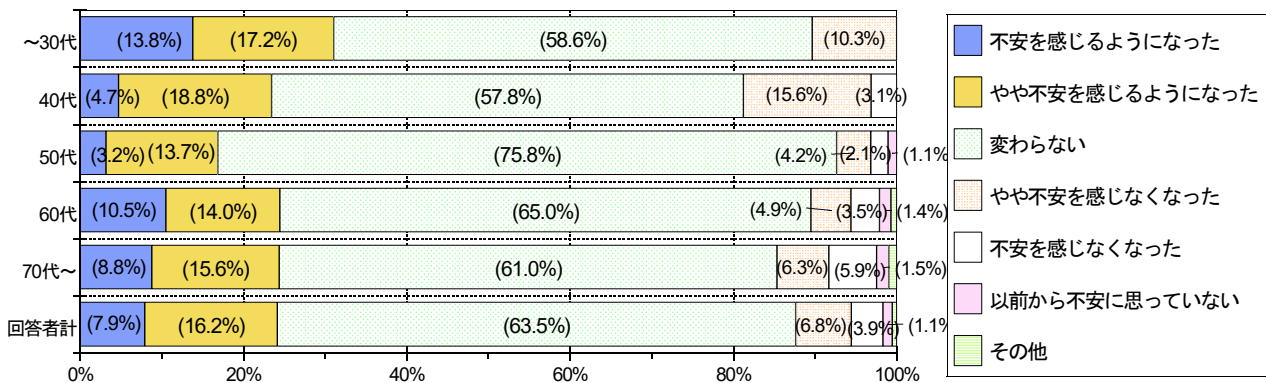
- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった |
| 3 変わらない        | 4 やや不安を感じなくなった   |
| 5 不安を感じなくなった   | 6 以前から不安に思っていない  |
|                | 7 その他            |

「不安を感じるようになった」(4.5%)、「やや不安を感じるようになった」(14.5%)を合わせた19.0%が何らかの不安を感じるようになっており、昨年度に比べ5.1ポイント減少した。また、「やや不安を感じなくなった」(8.4%)は昨年度に比べ1.6ポイント減少し、「不安を感じなくなった」(3.3%)は昨年度に比べ0.6ポイント減少した。

年代別では、有意差は見られない。



R3 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)



R2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)

問3 問2で、意識の変化があったと回答した方にお聞きします。意識が変化した理由は何ですか。自由にお書きください。

計131件の記述回答があり、問2で選んだ選択肢毎に、理由の概要、主な内容を下表にまとめた。

問2で「1 不安を感じるようになった」「2 やや不安を感じるようになった」と回答した方の主な理由は、「新型コロナウイルスについて」、「ALPS処理水について」、「食品添加物について」であった。

問2で「4 やや不安を感じなくなった」、「5 不安を感じなくなった」と回答した方の主な理由は、「放射性物質について」、「新型コロナウイルスについて」、「モニター活動について」であった。

	理由の概要	主な内容
1 又 は 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスについて (19)</li> <li>・ALPS処理水について (8)</li> <li>・食品添加物について (7)</li> <li>・放射性物質について (6)</li> <li>・自然災害について (5)</li> <li>・輸入食品について (3)</li> <li>・遺伝子組換え食品について (3)</li> <li>・ゲノム編集食品について (3)</li> <li>・環境汚染について (3)</li> <li>・情報発信について (3)</li> <li>・食環境の変化について (3)</li> <li>・食品表示について (2)</li> <li>・HACCPについて (2)</li> <li>・その他 (21)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で、食品に対して不安が増すようになったから。</li> <li>・コロナの中で生産や物流などの動きが正常であるかどうか心配だから。</li> <li>・放射能の汚染水が海に流されたら、魚介類の風評被害が起こるから。</li> <li>・放射能汚染水の海洋放出のニュースを多く見るようになったから。</li> <li>・添加物についての意識が以前より強まったから。</li> <li>・添加物があまりにも多いから。</li> <li>・報道による食品の出荷停止のニュースが増えた様に感じるから。</li> <li>・遺伝子組換えの作物など、ゲノム編集のトマトなどが流通することをニュース等で耳にしたから。</li> <li>・表示もなく見えない危険な部分が増えているから。</li> <li>・宴会等、密での会食が減る中、宅配・家庭での食事の回数が増加するから。</li> <li>・情報が多く、逆に不安となったから。</li> <li>・生活の変化に合わせているのか、加工品・準加工品が多くなったから。</li> <li>・年齢の増加によって、体力の減少が生じたため食についても不安が増したから。</li> </ul>
4 又 は 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質について (11)</li> <li>・新型コロナウイルスについて (8)</li> <li>・モニター活動について (7)</li> <li>・情報公開・報道について (3)</li> <li>・食品表示について (2)</li> <li>・その他 (12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質に対しては、年月が経ってきたから。</li> <li>・検査を受けてクリアしたものが出荷されてると思うから。</li> <li>・岩手県産しいたけの出荷制限指示が解除されて店頭に並んでいたから。</li> <li>・コロナ感染のため、衛生面における気配りを徹底したから。</li> <li>・食の安全安心セミナー等に参加したことで、食品についての理解が進んだから。</li> <li>・消費者モニターになり、食品に対する関心が高まったから。</li> <li>・様々な公的機関からの情報発信があるから。</li> <li>・食品表示が明確化してきているように感じるから。</li> </ul>

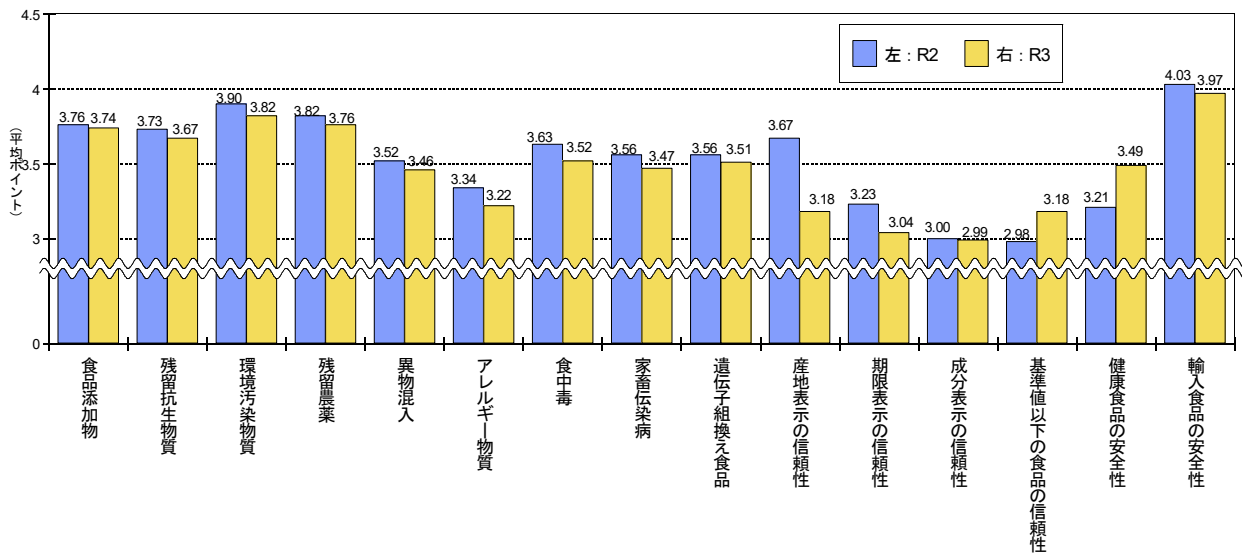
問4 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。  
(5段階評価)

A 食品添加物について	B 残留抗生物質について	C 環境汚染物質について
D 残留農薬について	E 異物混入について	F アレルギー物質について
G 食中毒について	H 家畜伝染病について	I 遺伝子組換え食品について
J 産地表示の信頼性	K 期限表示の信頼性	L 栄養成分表示の信頼性
M 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	O 輸入食品の安全性	P その他

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(3.97点)が最も高く、次いで「環境汚染物質」(3.82点)、「残留農薬」(3.76点)、「食品添加物」(3.74点)、「残留抗生物質」(3.67点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果と比べ、全体的に減少傾向にあり、「産地表示の信頼性」については、0.49ポイント減少している。しかし、「基準値以下の食品の信頼性」及び「健康食品の安全性」については、0.2ポイント以上増加した。



項目各々についての不安 (複数回答)

※平均ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

問5 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

A 生産者の取組への支援	B 安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C 事業者に対する支援	D 生産段階における安全性の確保
E 流通・販売段階における安全性の確保	F 食品表示の適正化の推進
	G その他

重要度	1 重要だと思う 2 やや重要だと思う 3 あまり重要だと思わない 4 重要だと思わない
満足度	1 十分行われている 2 行われている 3 やや不十分である 4 不十分である

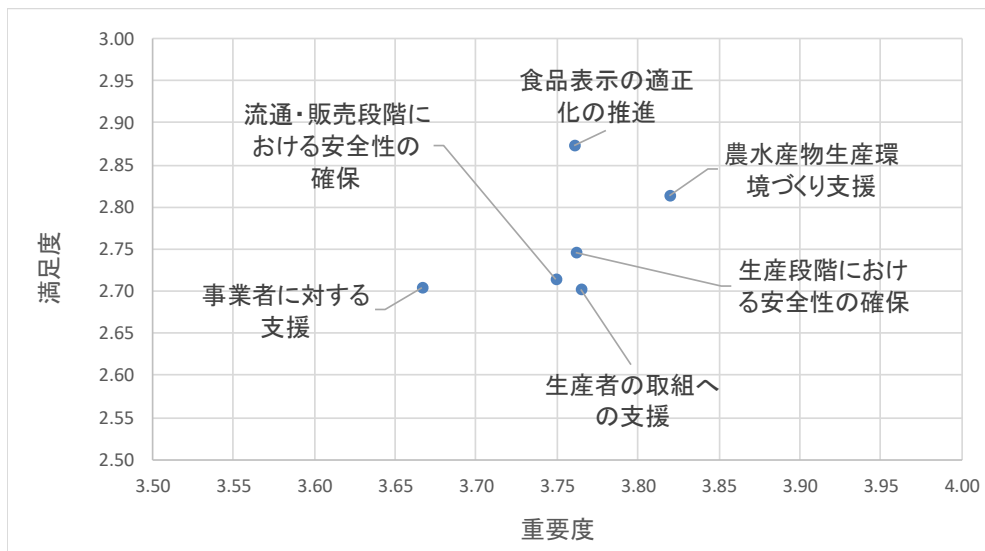
食の安全性を確保するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者の取組への支援」、「流通・販売段階における安全性の確保」、「生産段階における安全性の確保」の順であった。

昨年度のアンケート調査結果では、「生産者の取組への支援」及び「流通・販売段階における安全性の確保」が同率であり、次いで「生産段階における安全性の確保」の順となっていた。今年度もおおむね同様の傾向となっている。

※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

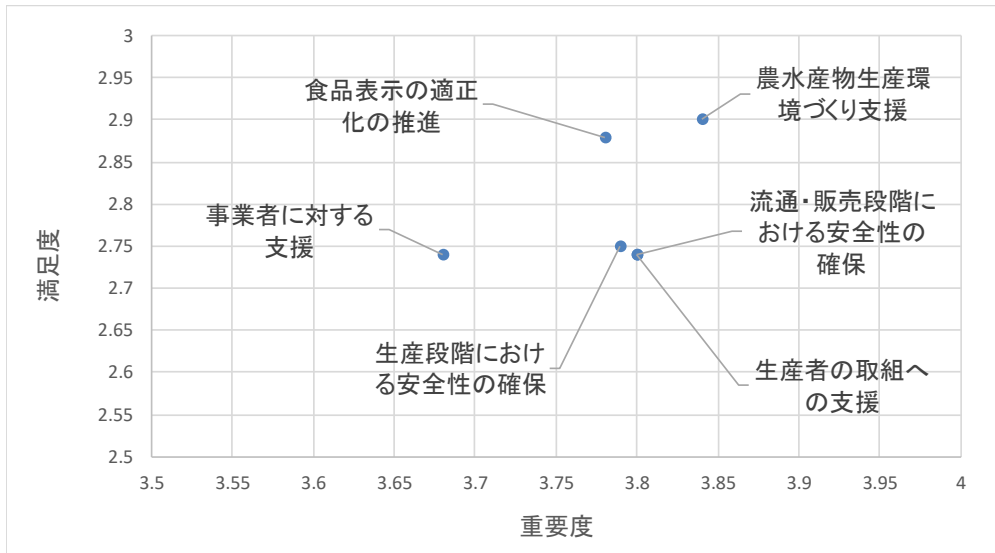
※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント
生産者の取組への支援	3.76	2.70	1.06
農水産物生産環境づくり支援	3.82	2.81	1.01
事業者に対する支援	3.67	2.70	0.96
生産段階における安全性の確保	3.76	2.75	1.02
流通・販売段階における安全性の確保	3.75	2.71	1.03
食品表示の適正化の推進	3.76	2.87	0.89



R3 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント
生産者の取組への支援	3.80	2.74	1.06
農水産物生産環境づくり支援	3.84	2.90	0.94
事業者に対する支援	3.68	2.74	0.94
生産段階における安全性の確保	3.79	2.75	1.04
流通・販売段階における安全性の確保	3.80	2.74	1.06
食品表示の適正化の推進	3.78	2.88	0.90



R2 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度

問6 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

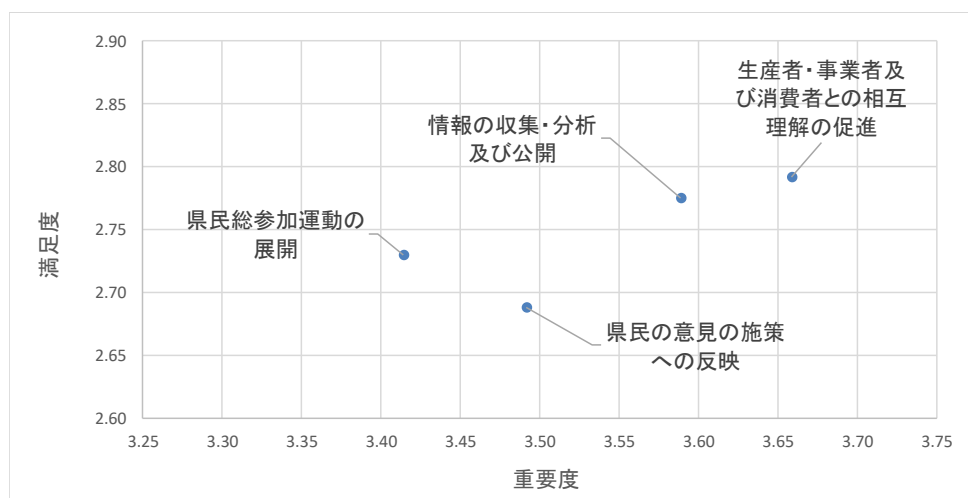
	A 情報の収集、分析及び公開	B 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進
	C 県民総参加運動の展開	D 県民の意見の施策への反映 E その他
重要度	1 重要だと思う 2 やや重要だと思う 3 あまり重要だと思わない	
満足度	4 重要だと思わない	
	1 十分行われている 2 行われている 3 やや不十分である 4 不十分である	

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていない（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」となった。次いで「情報の収集・分析及び公開」、「県民の意見の施策への反映」の順であり、昨年と同様の傾向であった。

※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

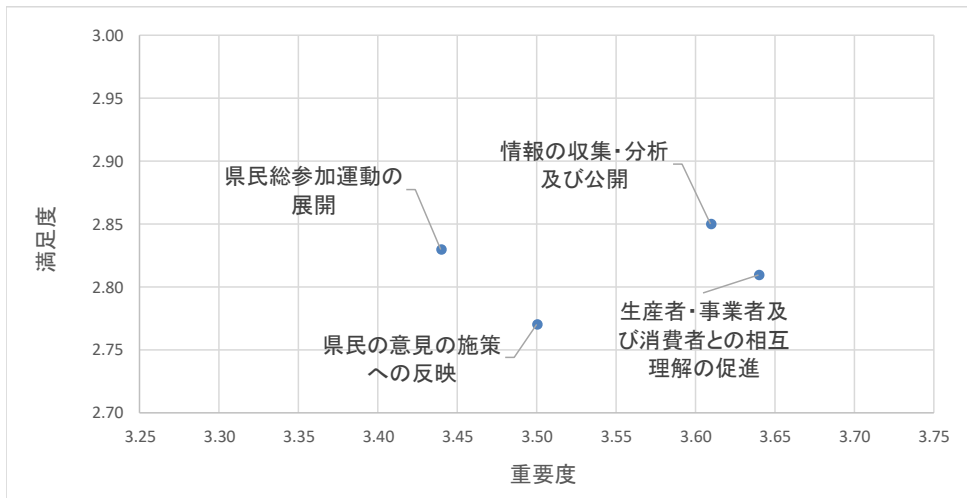
	重要度	満足度	差ポイント
情報の収集・分析及び公開	3.59	2.78	0.81
生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進	3.66	2.79	0.87
県民総参加運動の展開	3.41	2.73	0.68
県民の意見の施策への反映	3.49	2.69	0.80



R3 食の信頼関係を確立するための取組の重要度と満足度



	重要度	満足度	差ポイント
情報の収集・分析及び公開	3.61	2.85	0.76
生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進	3.64	2.81	0.83
県民総参加運動の展開	3.44	2.83	0.61
県民の意見の施策への反映	3.50	2.77	0.73



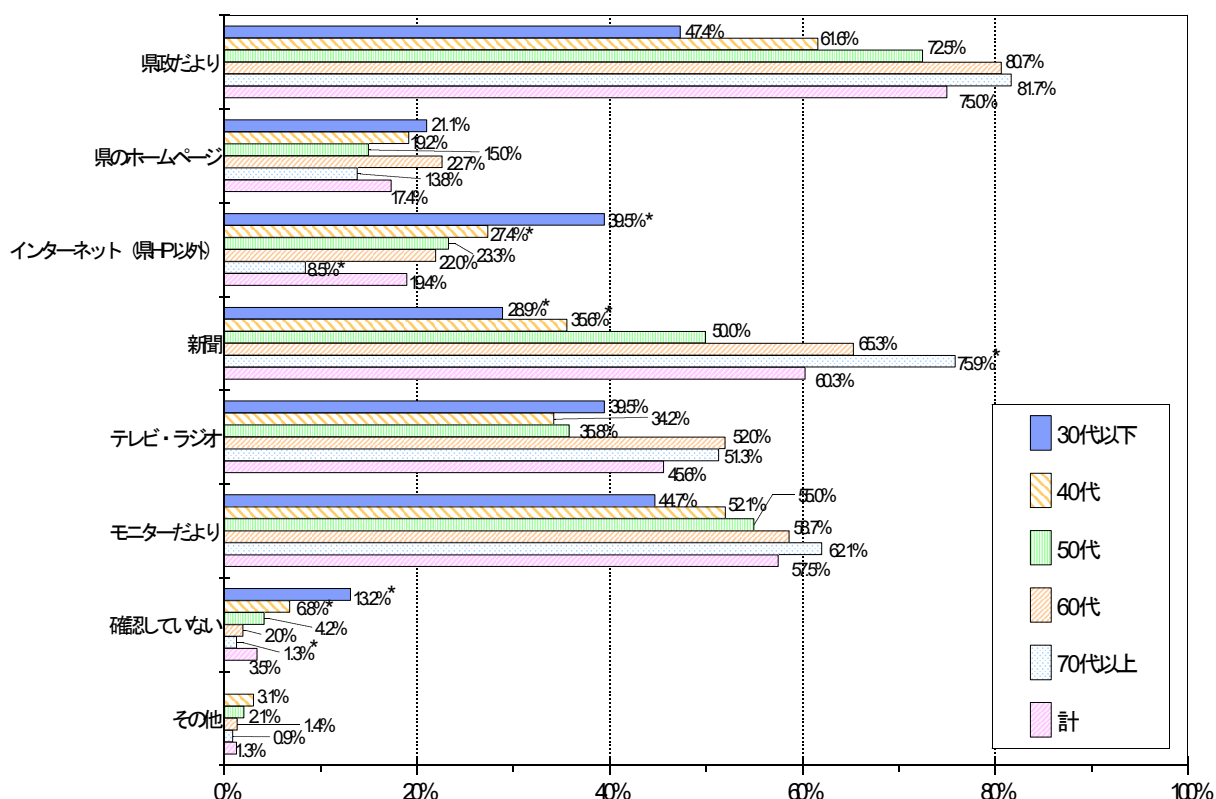
R2 食の信頼関係を確立するための取組の重要度と満足度

問7 どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。  
(複数回答)

- 1 県政だより 2 県のホームページ 3 インターネット (県ホームページ以外)  
4 新聞 5 テレビ・ラジオ 6 モニターだより 7 確認していない  
8 その他

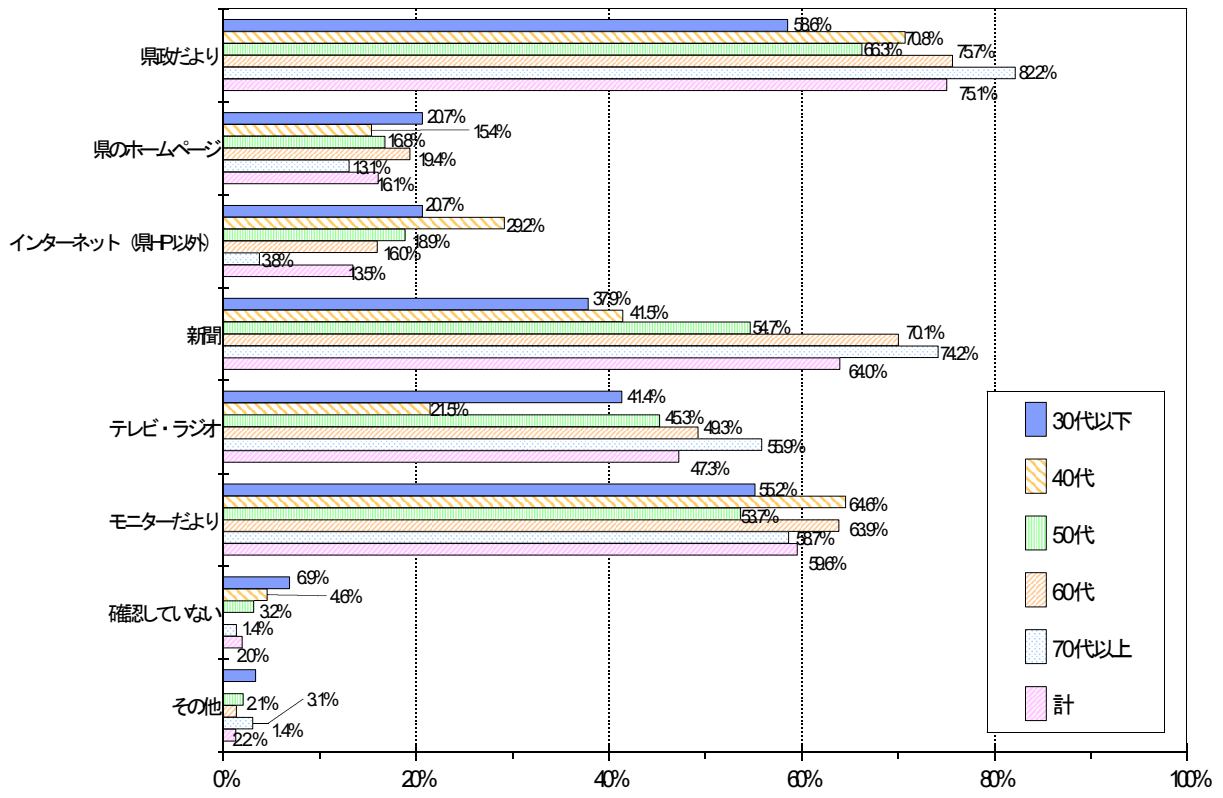
県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(75.0%)が最も多く、次いで「新聞」(60.3%)、「モニターだより」(57.5%)の順となり、昨年と同様の傾向であった。

年代別では、「インターネット (県ホームページ以外)」、「新聞」、「確認していない」の項目で有意差が見られた。「インターネット (県ホームページ以外)」及び「確認していない」項目では、30代以下・40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。一方で「新聞」の項目では、30代以下・40代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。



R3 どのように県が出す情報を確認しているか (年代別、複数回答)

\* 有意差あり (p<0.05)



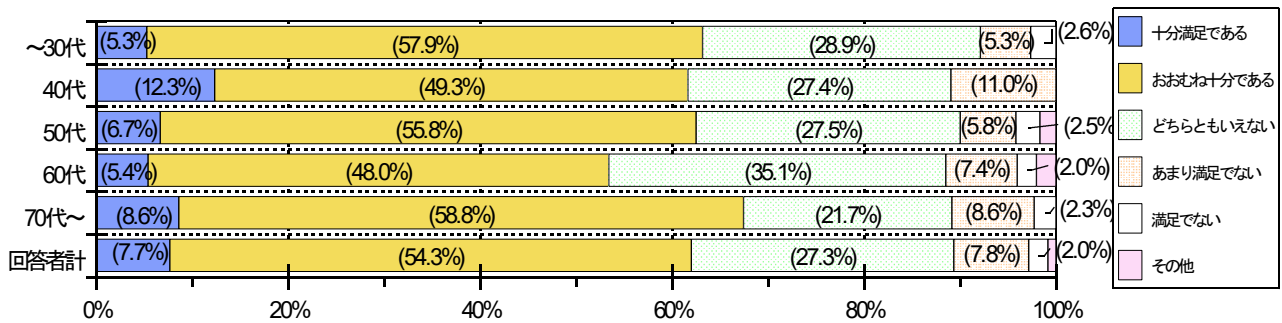
R2 どのように県が出す情報を確認しているか（年代別 複数回答）

問8 県からの食の安全安心に関する情報提供について、満足だと感じていますか。  
(単一回答)

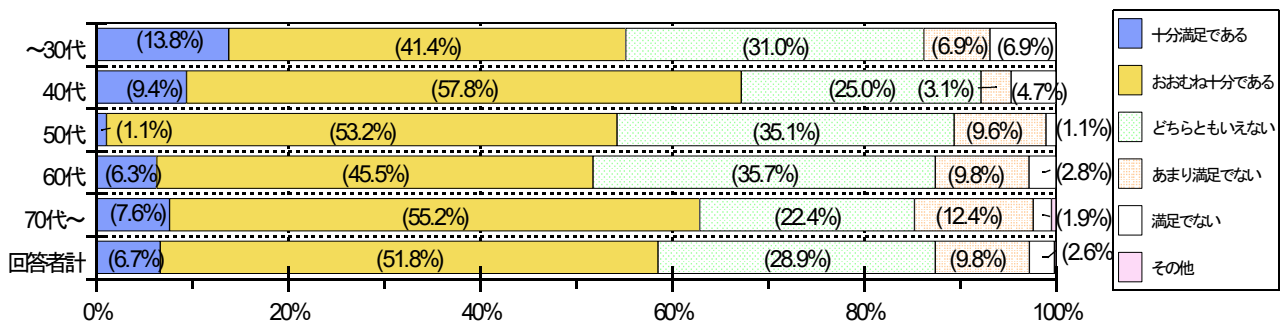
- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 1 十分満足である  | 2 おおむね満足である | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり満足でない | 5 満足でない     | 6 その他       |

県からの情報提供については、「十分満足である」(7.7%)と「おおむね満足である」(54.3%)を合わせて62.0%となり、昨年度に比べ3.5ポイント増加した。また、「あまり満足でない」(7.8%)と「満足でない」(2.0%)を合わせて9.8%となり、昨年度に比べ2.6ポイント減少した。

年代別では、有意差は見られない。



R3 県からの情報お満足か (年代別)



R2 県からの情報お満足か (年代別)

問9 問8の回答理由はなんですか。自由にお書きください。

計92件の記述回答があり、問8で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問8で「1 十分満足である」、「2 おおむね満足である」と回答した者の主な要望は、「幅広い情報提供」、「メディアを活用した情報提供」であった。

問8で「4 あまり満足でない」、「5 満足でない」と回答した者の主な理由は、「情報量が少ない」、「意識しないと情報が得られない」、「県民全体に情報が伝わっていない」であった。

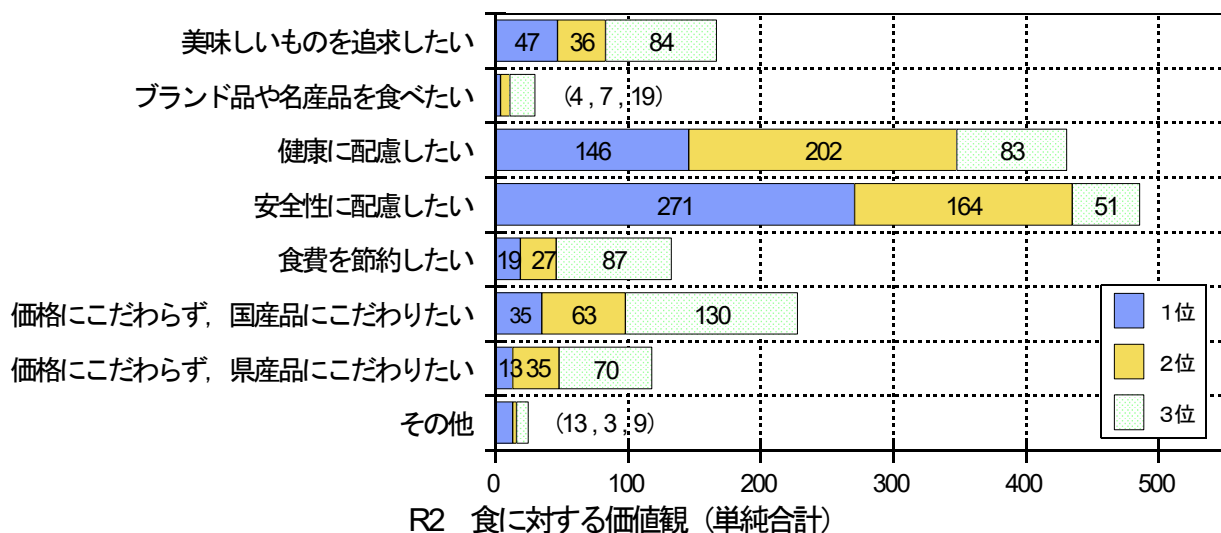
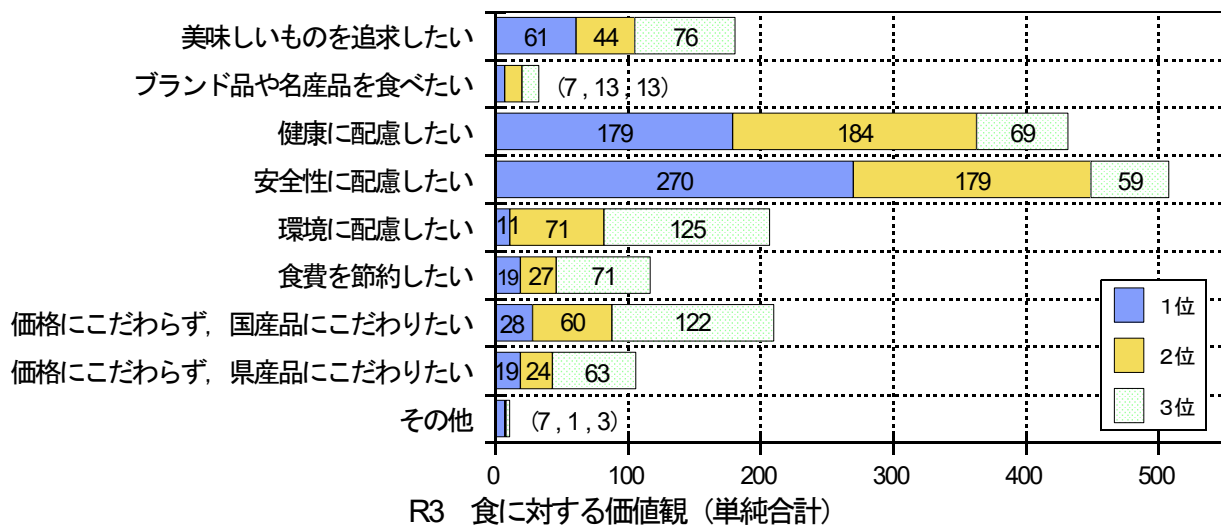
	理由	要望
1 及び 2	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者でインターネット、スマホを使わない方々まで県の情報は行き渡っていない。</li> <li>・情報を目にする機会がもう少し多くても良い気がする。</li> <li>・テレビなどで放送して、その都度情報を知ることが出来ると良い。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欲しい情報が入手しにくいことがあるため。</li> <li>・情報を得ようとしている人には十分でも、自ら得ようとしていない人へのアプローチがは不十分であるため。</li> <li>・関心のある人だけの活動になっている気がするから。</li> <li>・積極的に求めないと情報が得られないから。</li> <li>・あえて情報提供にアクセスする機会が普段なく、イベントもコロナの影響でないから。</li> <li>・日常生活の中で情報を知る機会があまりない。関心のある方は敏感になっているが、その他の方はあまり考える機会がないと思うから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民全員に目に入るような情報提供をされたほうがいいと思う。</li> <li>・テレビのCMなど、メディアを利用して欲しい。</li> <li>・「食の安全」について、本質を再検討してほしい。</li> <li>・テレビ、ラジオでも県の情報を定期的に放送してほしい。</li> <li>・SNSでもっと情報発信すべきである。</li> <li>・情報の出し方を一方的ではなく、県民に伝わる方法を考えてほしい。</li> <li>・子どもたちにもわかるような情報発信をしてはどうか。</li> </ul>
4 及び 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者が意識して収集しないと情報が得られないから。</li> <li>・「広く浅く」な情報発信であるから。</li> <li>・情報が目立たないから。</li> <li>・情報提供の回数が極めて低いと感じているから。</li> <li>・的確な情報がタイムリーにモニターに流れてこないから。</li> <li>・ウェブサイト疎速な方々への配慮がないから。</li> <li>・県民に対する食の安全安心の取組が見えづらいから。</li> <li>・情報の公開があまり行われていなく、広く市民に認知されていないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビなどの情報番組やSNS等でも情報発信してほしい。</li> <li>・情報は大人向けのものが多いけれど、小学生くらいから情報に触れる機会があっても良いと思う。</li> <li>・研修会等をもっと多く開催してもらいたい。</li> <li>・新聞等でも普通の記事ではなく、ぱっと目を引く見せ方、色の使い方を工夫してほしい。</li> <li>・県政・市政だよりも食文化、食生活の重要性を記して欲しい。</li> <li>・消費者が意識して情報収集しないと得られないため、生活の中で自然に情報が入ってくるような環境が作れば良いと思う。</li> </ul>

問10 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。  
(優先度の高い順に3つ)

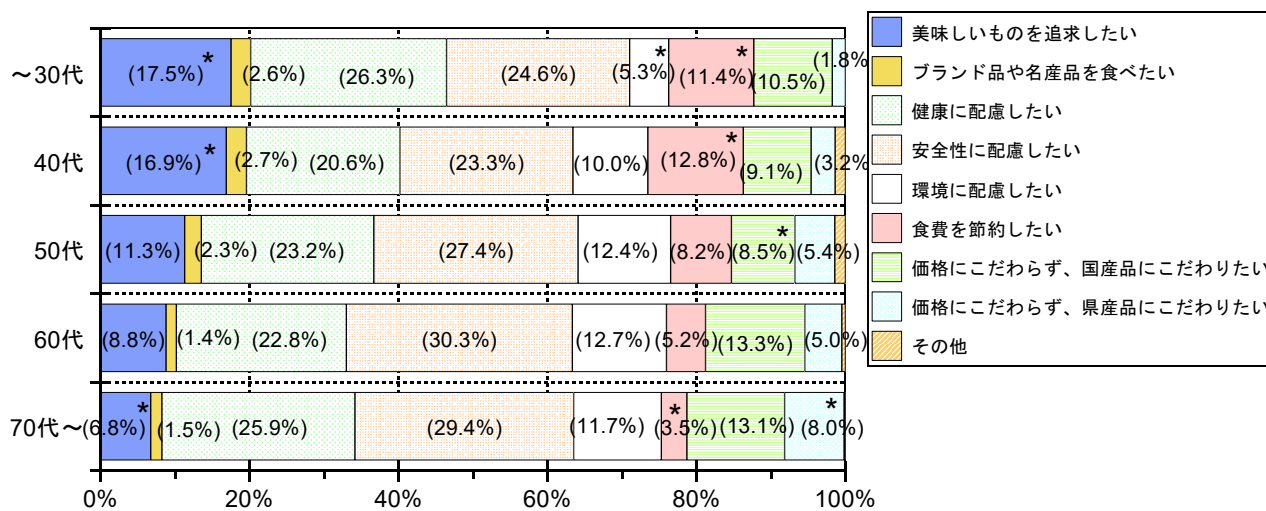
- |                       |                       |            |
|-----------------------|-----------------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい        | 2 ブランド品や名産品を食べたい      |            |
| 3 健康に配慮したい            | 4 安全性に配慮したい           | 5 環境に配慮したい |
| 6 食費を節約したい            | 7 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい |            |
| 8 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 9 その他                 |            |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(508人)、「健康に配慮したい」(432人)と回答する人が非常に多く、次いで「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(210人)、「環境に配慮したい」(207人)、「美味しいものを追求したい」(181人)の順であった。

昨年度の結果と同様の傾向となり、新たに追加した選択肢「環境に配慮したい」は全体で4番目に多かった。

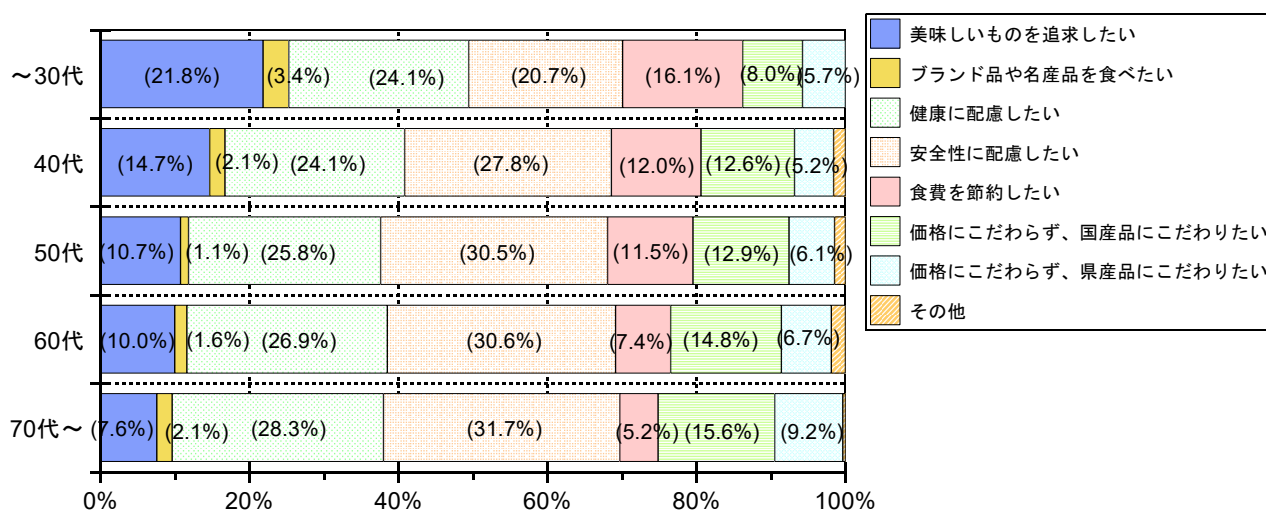


年代別では以下5つの項目で有意差が見られた。「美味しいものを追求したい」及び「食費を節約したい」の項目では、30代以下・40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また「環境に配慮したい」の項目では、30代以下の回答割合が低い。「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」の項目では、50代の回答割合が低く、「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目では、70代以上の回答割合が高い。



R3 食に対する価値観（単純合計，年代別）

\* 有意差あり (p<0.05)



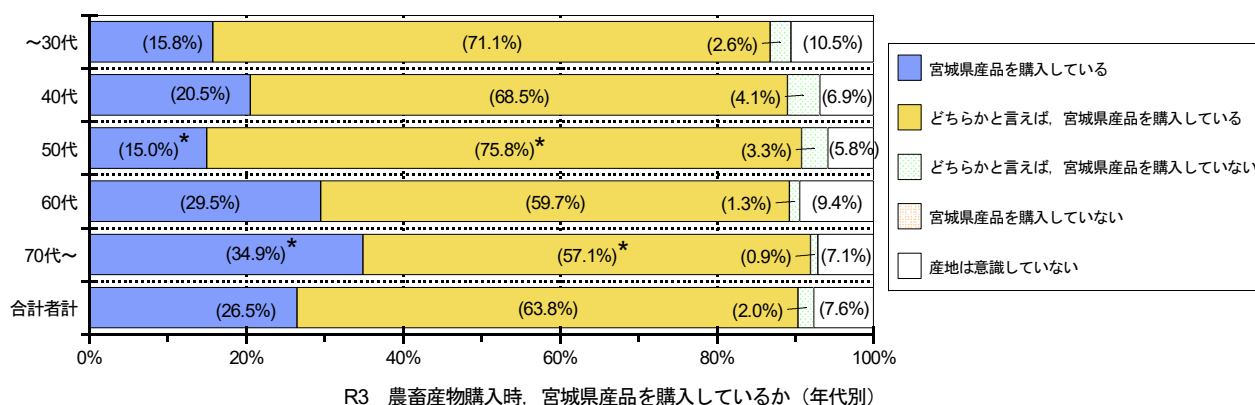
R2 食に対する価値観（単純合計，年代別）

問 1 1 農畜産物（米，野菜，肉など）を購入する時，宮城県産品を購入していますか。  
 あてはまる数字に○をつけてください。（単一回答）

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 宮城県産品を購入している           | 2 どちらかと言えば，宮城県産品を購入している |
| 3 どちらかと言えば，宮城県産品を購入していない | 4 宮城県産品を購入していない         |
| 5 産地は意識していない             |                         |

農産物の購入時における県産品の購入については、「宮城県産品を購入している」（26.5%）と「どちらかと言えば，宮城県産品を購入している」（63.8%）を合わせて90.3%となり，9割以上が県産品を購入している結果となった。また，「産地は意識していない」は7.6%となった。

年代別では「宮城県産品を購入している」及び「どちらかと言えば，宮城県産品を購入している」の項目で有意差が見られた。「宮城県産品を購入している」の項目では，50代の回答割合が低く，70代以上の回答割合が高い。一方で，「どちらかと言えば，宮城県産品を購入している」の項目では，50代の回答割合が高く，70代以上の回答割合が低い。



\* 有意差あり (p<0.05)

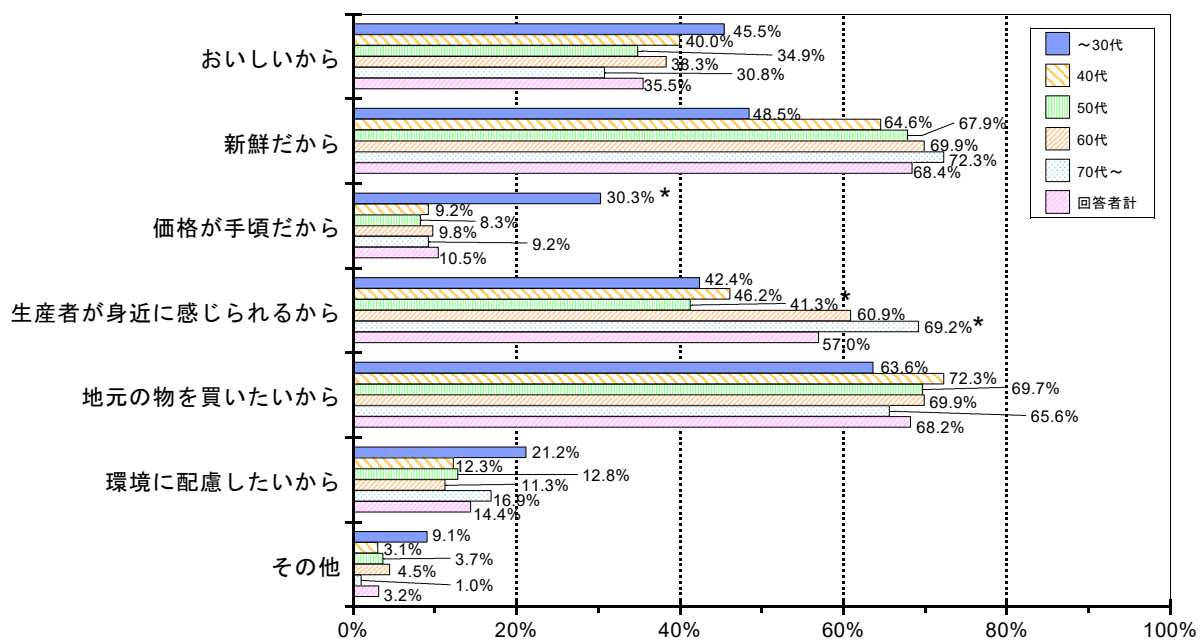


問12 問11で「1 宮城県産品を購入している」「2 どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入している理由は何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。（3つまで回答可）

- |                  |               |            |
|------------------|---------------|------------|
| 1 おいしいから         | 2 新鮮だから       | 3 価格が手頃だから |
| 4 生産者が身近に感じられるから | 5 地元の物を買いたいから |            |
| 6 環境に配慮したいから     | 7 その他         |            |

問11で「宮城県産品を購入している」または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」の回答者のうち、その理由としては、「新鮮だから」（68.4%）が最も多く、次いで「地元の物を買いたいから」（68.2%）、「生産者が身近に感じられるから」（57.0%）、「おいしいから」（35.5%）の順である。

年代別では、「価格が手頃だから」及び「生産者が身近に感じられるから」の項目で有意差が見られた。「価格が手頃だから」の項目では、30代以下の回答割合が高く、「生産者が身近に感じられるから」の項目では、50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。



R3 県産品を購入している理由（年代別、3つまで回答）

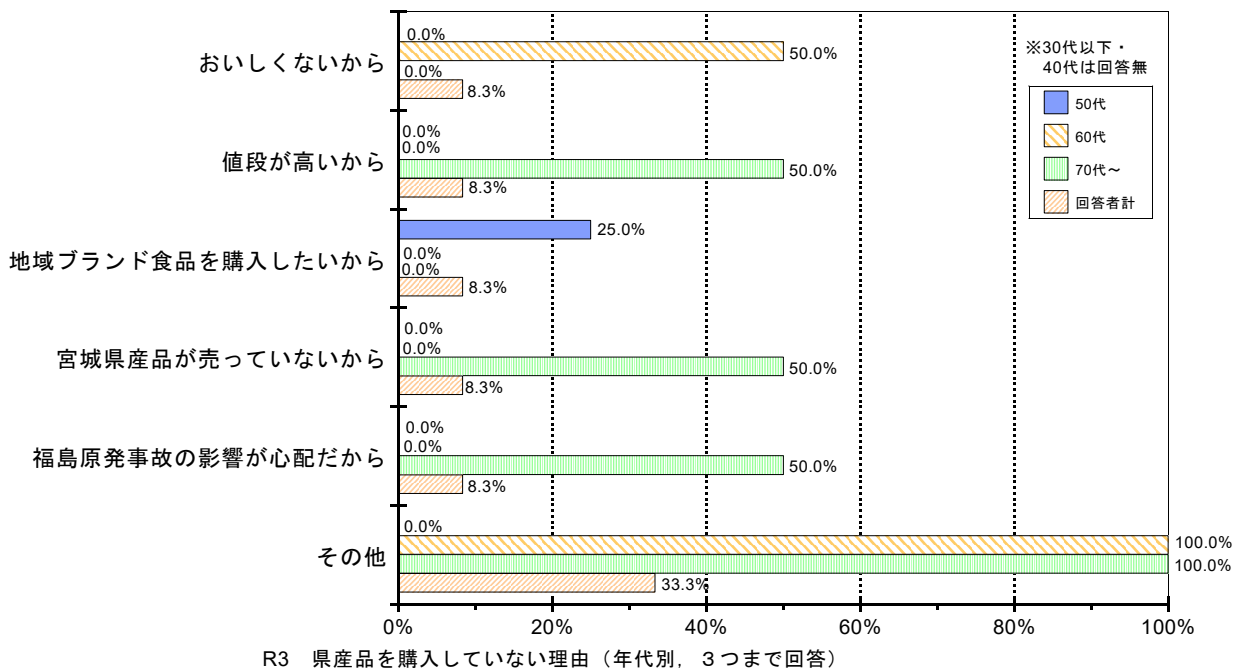
\* 有意差あり (p<0.05)

問13 問11で「3 どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」「4 宮城県産品を購入していない」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入していない理由は何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。(3つまで回答可)

- |   |                               |   |         |
|---|-------------------------------|---|---------|
| 1 | おいしくないから                      | 2 | 値段が高いから |
| 3 | 地域ブランド食品(例：○野菜, ○○牛等)を購入したいから |   |         |
| 4 | 宮城県産品が売っていないから                |   |         |
| 5 | 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が心配だから  | 6 | その他     |

問11で「どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」または「宮城県産品を購入していない」の回答者のうち、その理由としては、「その他」(33.3%)が最も多かった。また、30代及び40代の回答はなかった。

年代別では、有意差は見られない。

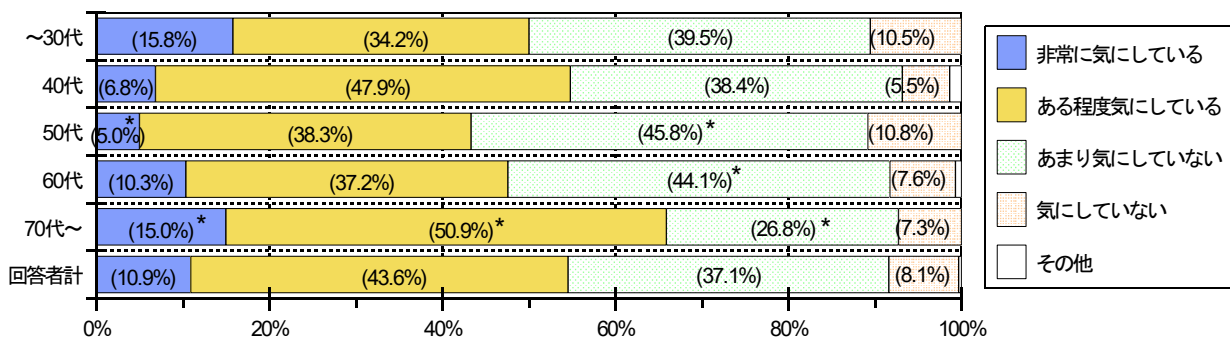


問 1 4 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| 1 非常に気にしている | 2 ある程度気にしている | 3 あまり気にしていない |
| 4 気にしていない   | 5 その他        |              |

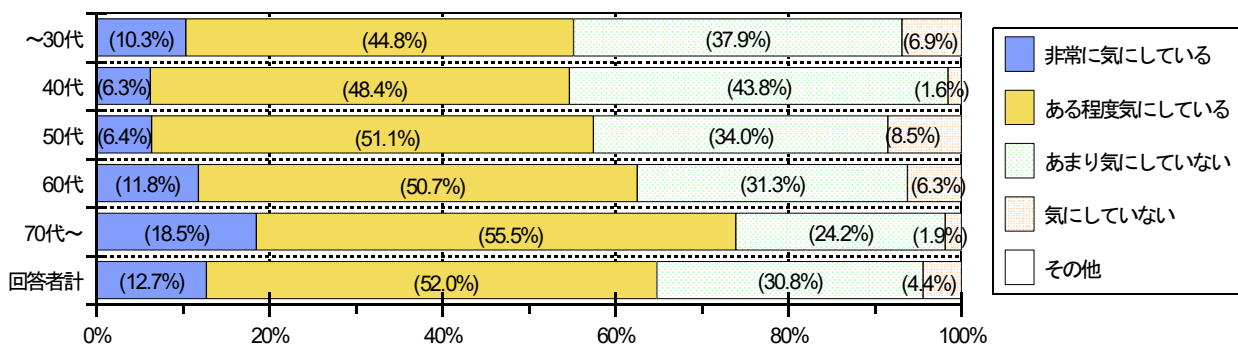
放射性物質については、「非常に気にしている」(10.9%)、「ある程度気にしている」(43.6%)を合わせた54.5%の回答者が気にしており、昨年度に比べ10.2ポイント減少した。また、「あまり気にしていない」(37.1%)、「気にしていない」(8.1%)を合わせた回答者は45.2%で、昨年度に比べ10.0ポイント増加した。

年代別では「非常に気にしている」、「ある程度気にしている」、「あまり気にしていない」の項目で有意差が見られた。「非常に気にしている」の項目では、50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。同様に「ある程度気にしている」の項目においても、70代以上の回答割合が高い。また「あまり気にしていない」の項目では50代・60代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



R3 放射性物質に対する意識 (年代別)

\* 有意差あり (p<0.05)



R2 放射性物質に対する意識 (年代別)

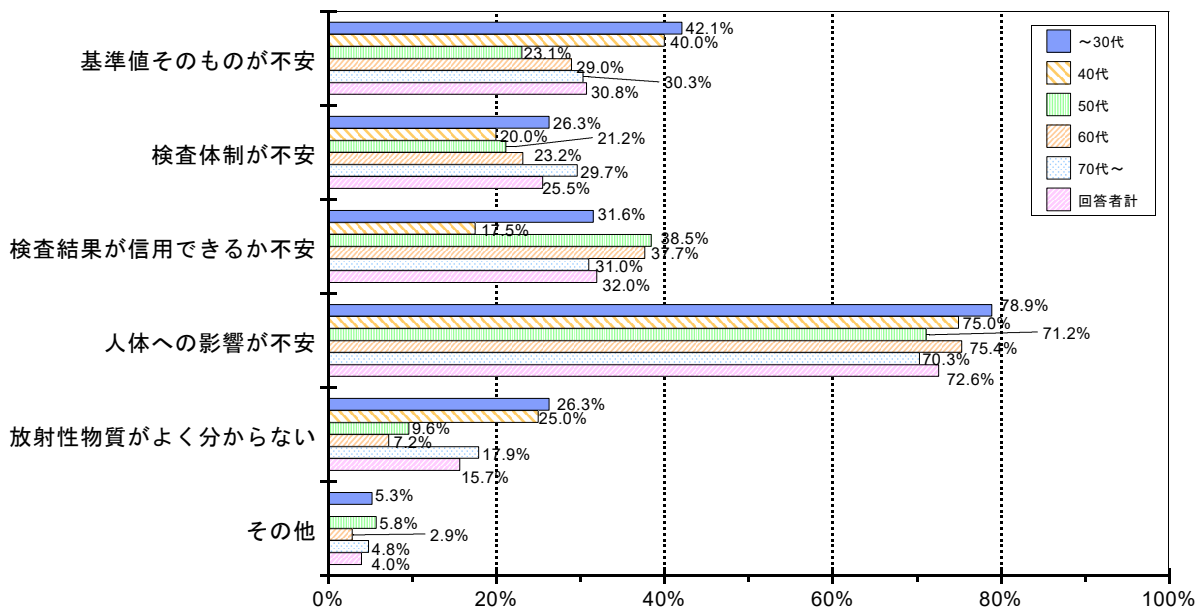
### 問15 気にしている理由は何ですか。(複数回答)

※問14で1「非常に気にしている」、または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

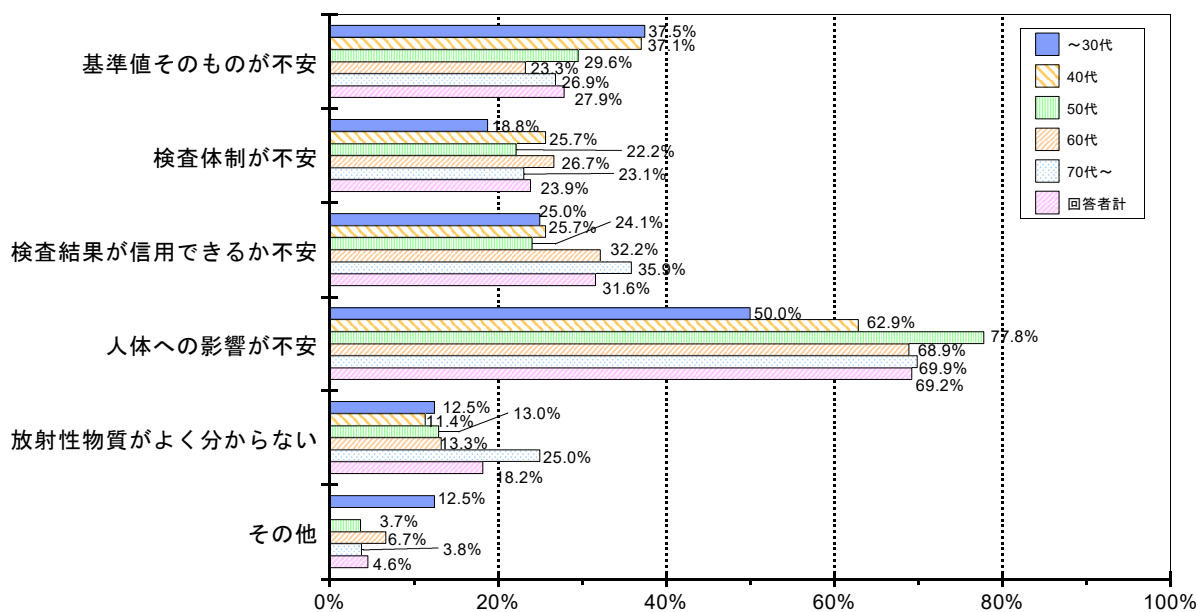
- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから             | 2 検査体制が不安だから            |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから |                         |
| 4 人体への影響が不安だから              | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他                       |                         |

問14で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(72.6%)が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(32.0%)、「基準値そのものが不安だから」(30.8%)の順である。

年代別では、有意差は見られない。



R3 気にしている理由 (年代別、複数回答)  
 ※問14で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答



R2 気にしている理由 (年代別、複数回答)  
 ※問14で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

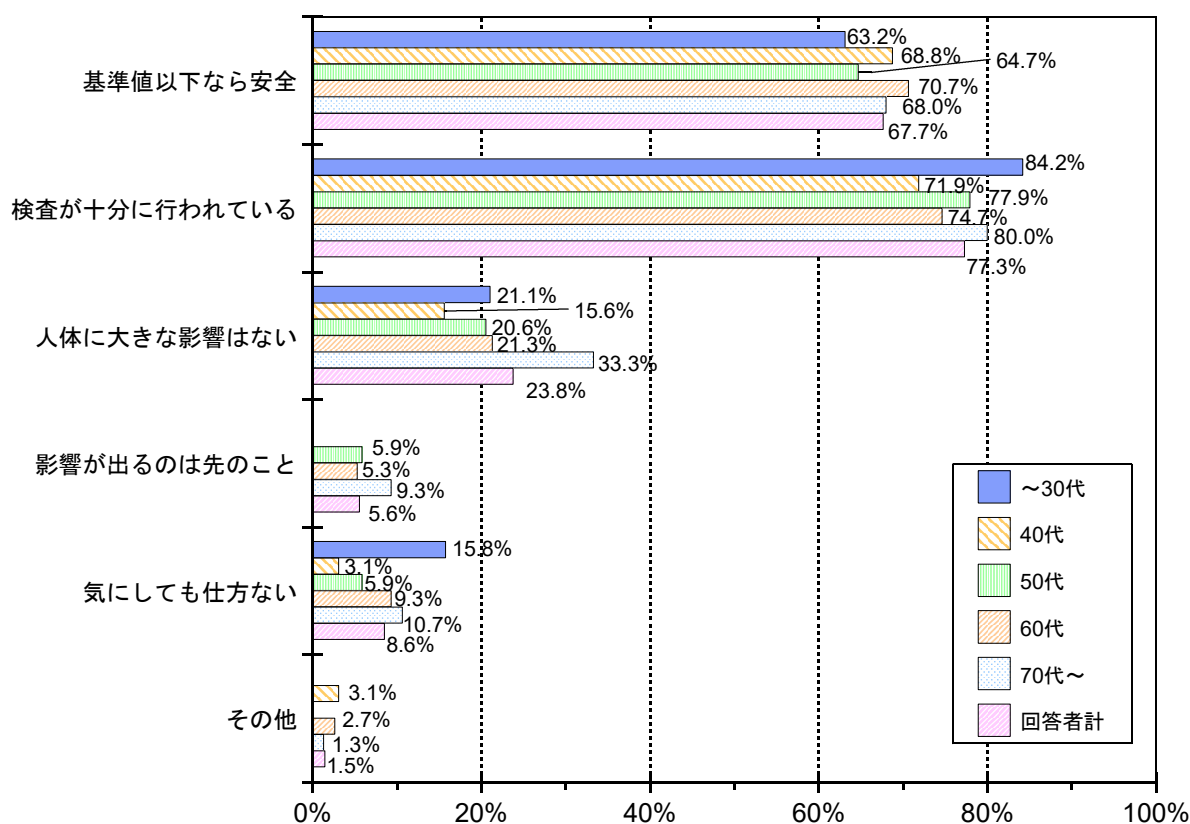
### 問16 気にしていない理由は何ですか。(複数回答)

※問14で3「あまり気にしていない」、または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

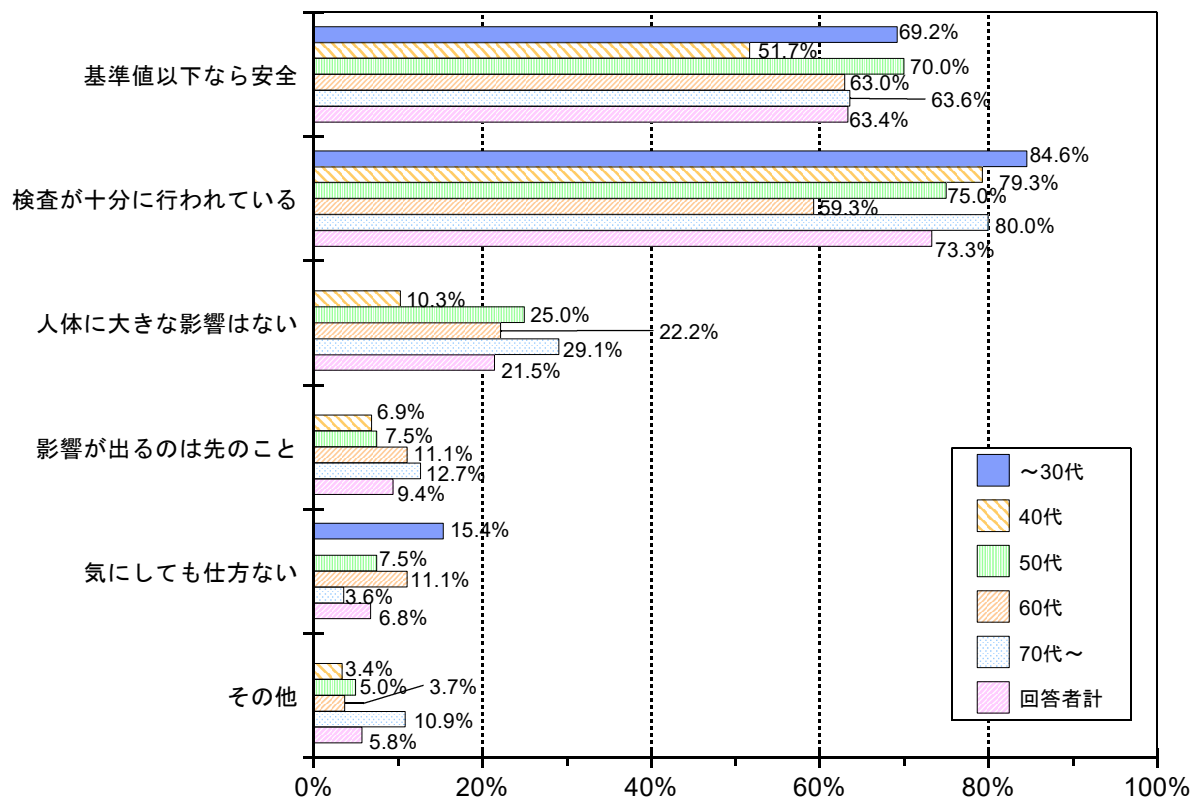
問14で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「検査が十分に行われていると思っているから」(77.3%)が最も多く、次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(67.7%)の順である。また、昨年度に比べ、「検査が十分に行われていると思っているから」は4ポイント、「基準値以下なら安全だと思っているから」は4.3ポイント増加した。

年代別では、有意差は見られない。



R3 気にしていない理由 (年代別, 複数回答)

※問14で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答



R2 気にしていない理由（年代別，複数回答）

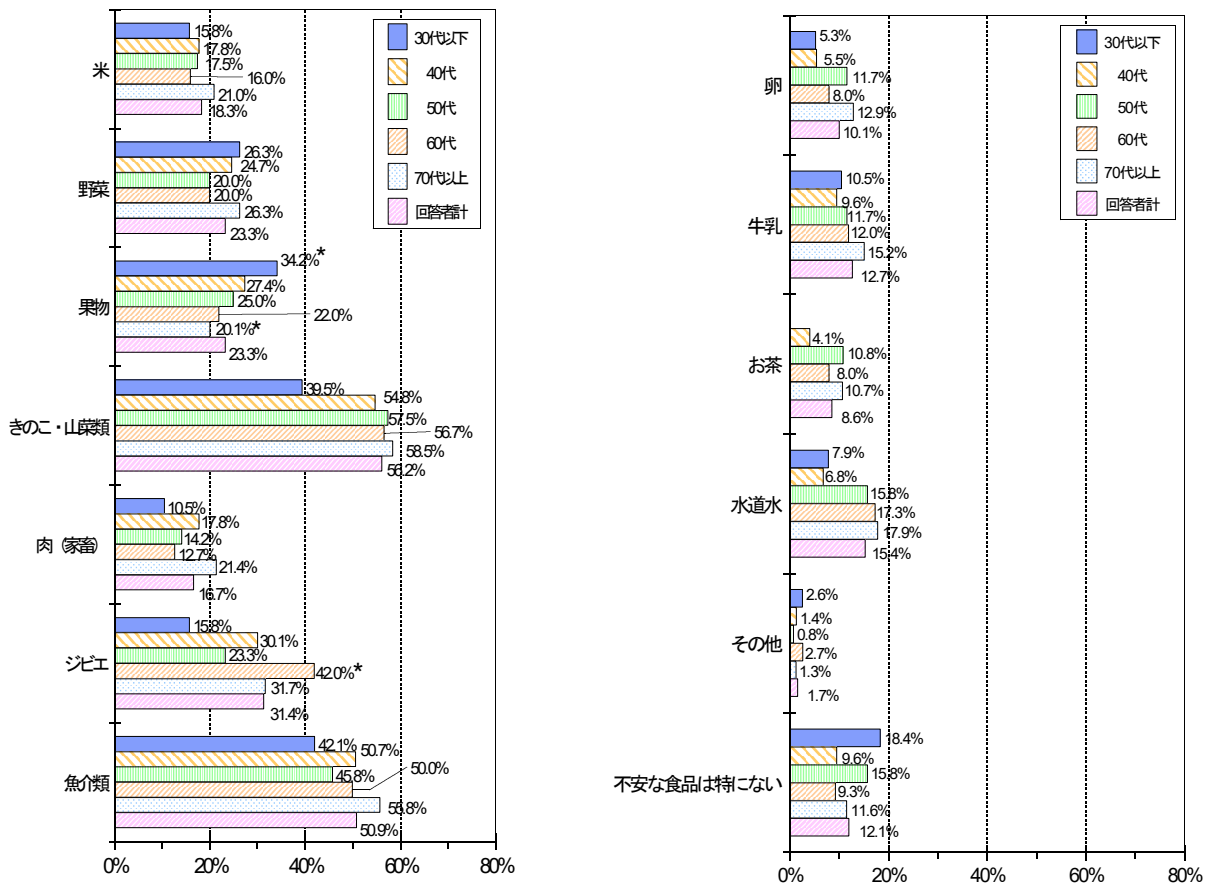
※問14で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

問17 食品中の放射性物質について、現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと山菜類	5 肉(家畜)
6 ジビエ(野生鳥獣肉)	7 魚介類	8 卵	9 牛乳	10 お茶
11 水道水	12 その他	13 不安な食品は特にない		

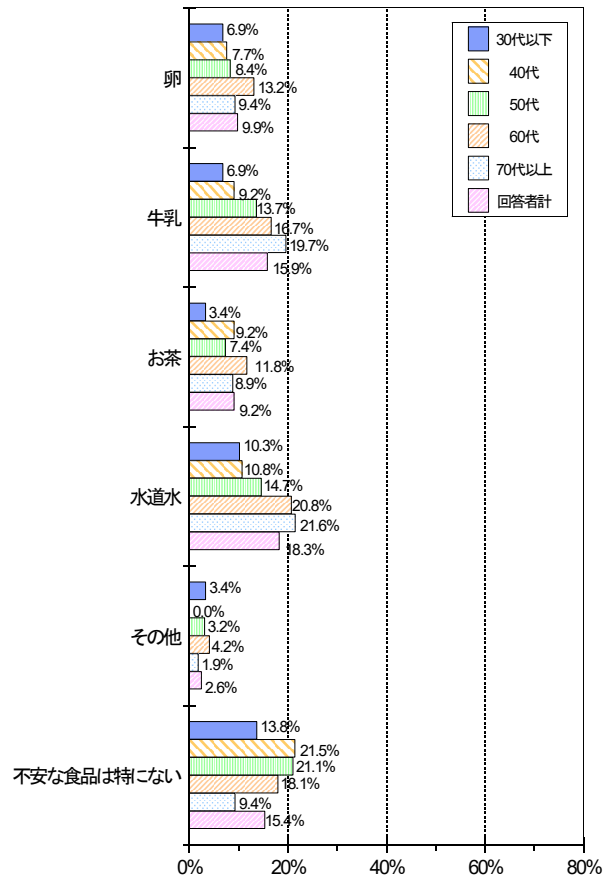
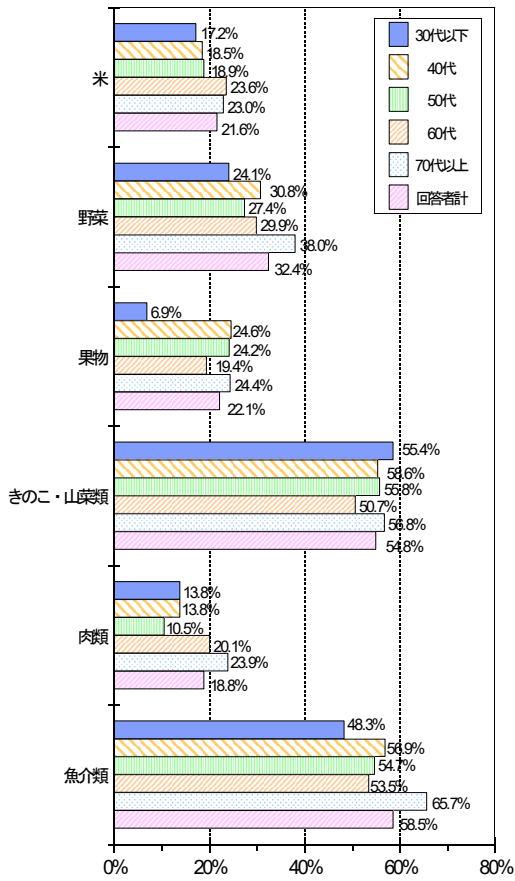
不安を抱えているものは、「きのこ・山菜類」(56.2%)が最も多く、次いで「魚介類」(50.9%)、「ジビエ」(31.4%)の順である。昨年度に比べ「魚介類」の項目が7.6ポイント減少し、新たに追加した選択肢「ジビエ(野生鳥獣肉)」の回答が比較的に多かったため、昨年度の順位とは異なる結果となった。また、「不安な食品は特にない」(12.1%)については、昨年度に比べ3.3ポイント減少した。

年代別では「果物」及び「ジビエ(野生鳥獣肉)」の項目で有意差が見られた。「果物」の項目では、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「ジビエ(野生鳥獣肉)」の項目では、60代の回答割合が高い。



R3 不安を感じる食品 (年代別、複数回答)

\* 有意差あり (p<0.05)



R2 不安を感じる食品（年代別、複数回答）



## 問 18 不安な食品の主な理由

( ) 内は回答人数

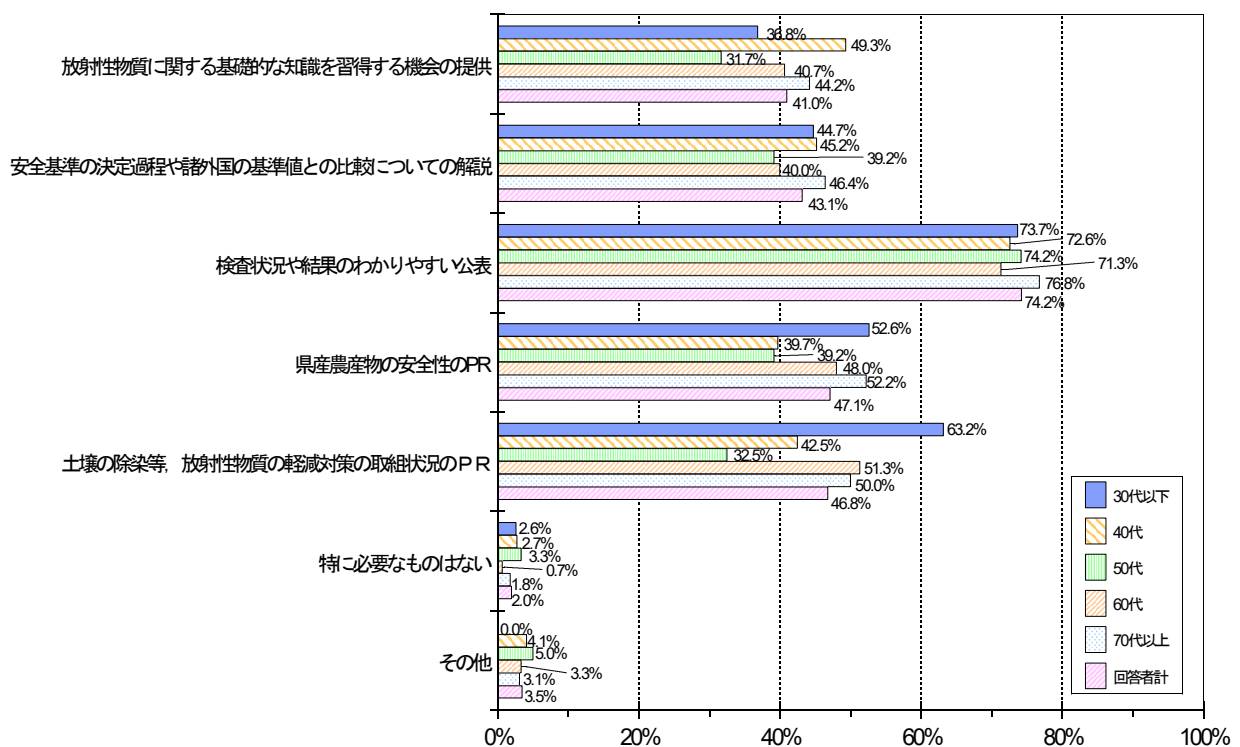
1. 米 (92)	2. 野菜 (112)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> <li>・農薬</li> <li>・水質汚染</li> <li>・土壌汚染</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・農薬</li> <li>・水質汚染</li> <li>・土壌汚染</li> </ul>
3. 果物 (104)	4. きのこと・山菜類 (250)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産地直売, 自主流通</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・農薬</li> <li>・輸入品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・検査結果</li> <li>・野生のもの</li> <li>・出荷制限</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> <li>・土壌汚染</li> </ul>
5. 肉 (家畜) (82)	6. ジビエ (野生鳥獣肉) (160)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・飼料</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・輸入品</li> <li>・土壌汚染</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・飼料</li> <li>・野生のもの</li> <li>・土壌汚染</li> <li>・出荷制限</li> </ul>
7. 魚介類 (256)	8. 卵 (51)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海水汚染</li> <li>・ALPS処理水</li> <li>・放射性物質</li> <li>・産地表示</li> <li>・回遊魚</li> <li>・貝類</li> <li>・毎日食べるものだから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料</li> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日食するものだから</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・検査体制</li> </ul>
9. 牛乳 (70)	10. お茶 (48)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料</li> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・検査体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・農薬</li> </ul>
11. 水道水 (75)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・水道の民営化</li> <li>・大気汚染</li> </ul>	

問 19 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。（複数回答）

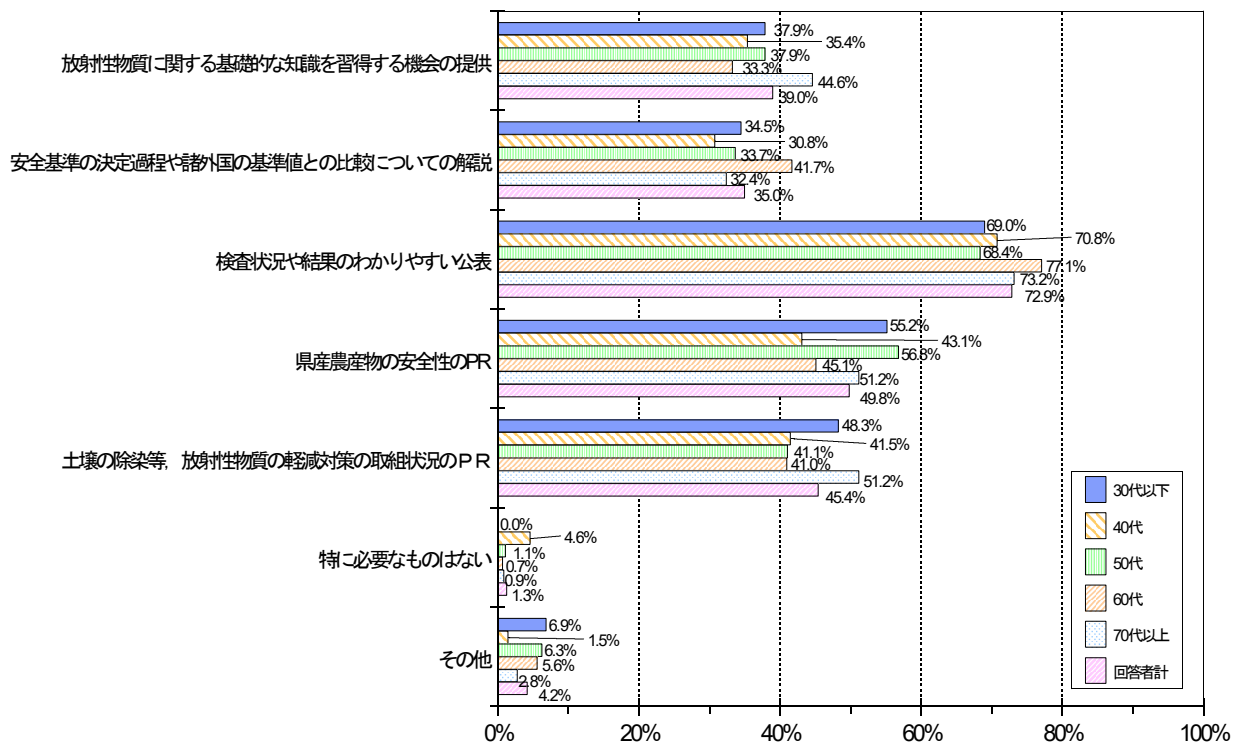
- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等，放射性物質の軽減対策の取組状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(74.2%)が最も多く、次いで「県産農産物の安全性のPR」(47.1%)、「土壌の除染等，放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」(46.8%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(43.1%)の順である。昨年度の結果と同様の傾向となっている。

年代別では、有意差は見られない。



R3 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（年代別，複数回答）



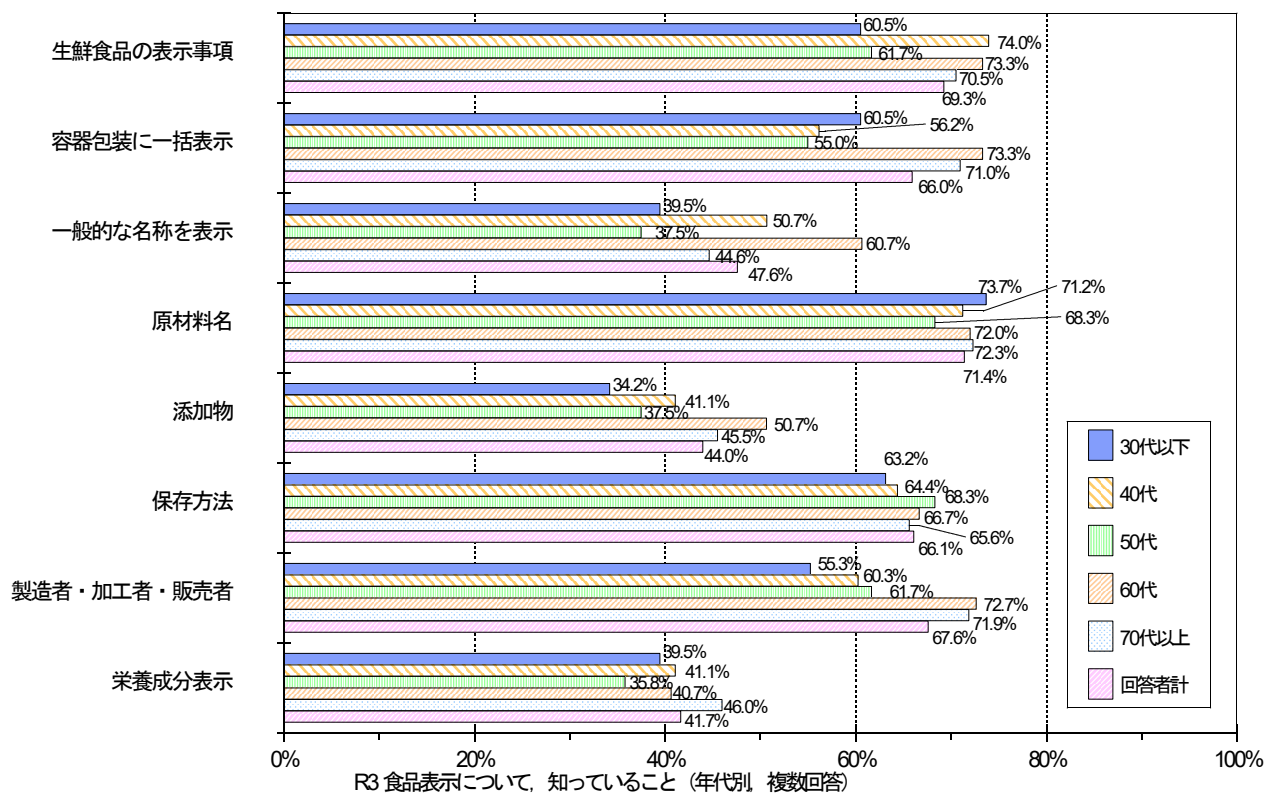
R2 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（年代別、複数回答）

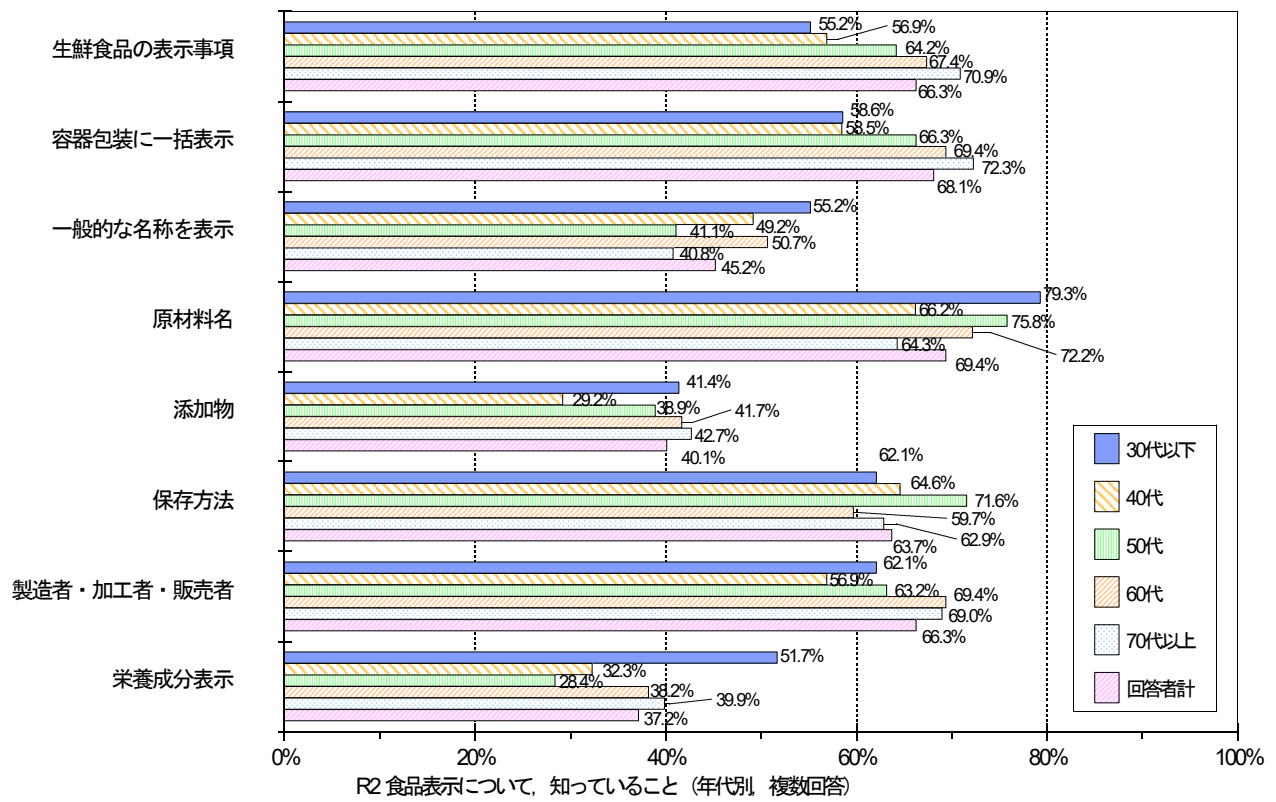
問20 食品表示について、あなたが知っていることは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。(複数回答)(令和2年度追加)

- 1 生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることもある。
- 2 加工食品の表示事項(名称, 原材料名など)は, 容器包装に一括して表示されている。
- 3 加工食品には, その商品の内容を表す一般的な名称が表示されている。
- 4 加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている。
- 5 加工食品に含まれる添加物は, 「添加物」欄を設けるか, 添加物以外の原材料と明確に区分して表示されている。
- 6 加工食品の「保存方法」欄には, 開封前の保存方法が表示されている。
- 7 加工食品には「製造者」「加工者」「販売者」などの項目名で, 表示に責任を持つ者の氏名(名称)及び住所が表示されている。
- 8 加工食品における栄養成分表示が義務化され, 一部例外を除き, すべての加工食品に栄養成分表示がされている。

食品表示について知っていることについては、「加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている」(71.4%)が最も多く, 次いで「生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることもある」(69.3%), 「加工食品には「製造者」「加工者」「販売者」などの項目名で, 表示に責任を持つ者の氏名(名称)及び住所が表示されている。」(67.6%)の順である。昨年度と比較し, 全体的に回答割合が2~3ポイント増加している。

年代別では, 有意差は見られない。



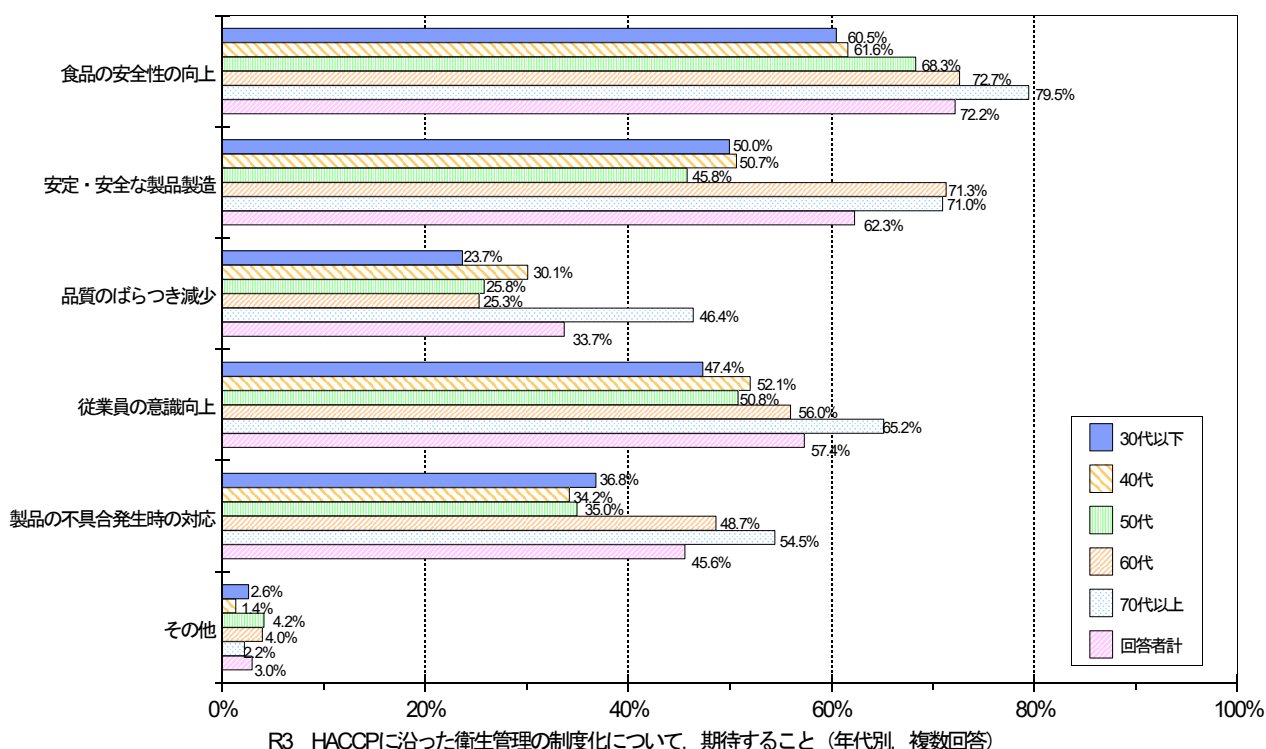


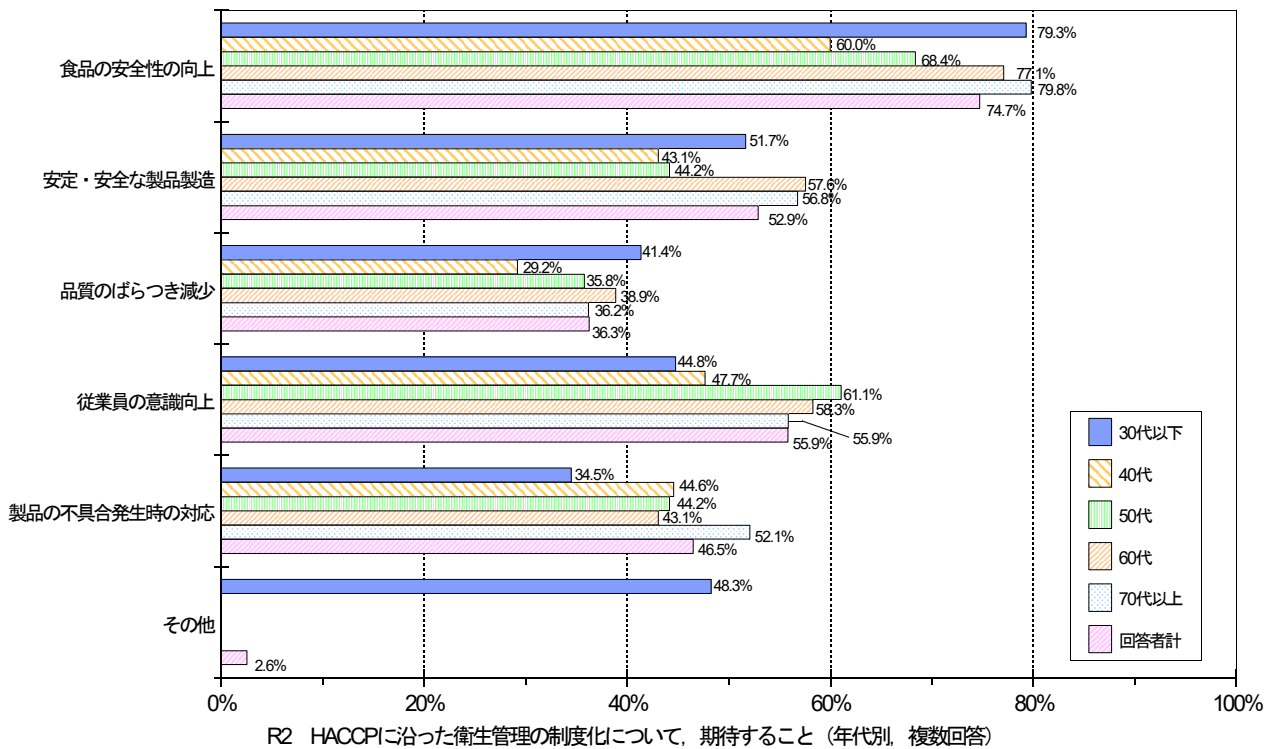
問 2 1 食品衛生法の改正により、原則としてすべての食品等事業者（食品の製造・加工，調理，販売等）は「HACCPに沿った衛生管理」を行うことが制度化されました（令和3年6月完全施行）。「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について、あなたが期待することは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。（複数回答）（令和2年度追加）

- 1 食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる。
- 2 衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる。
- 3 品質のばらつきが少なくなり、異物混入の可能性が減る。
- 4 食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する。
- 5 製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる。
- 6 その他

「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について、期待することについては、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」（72.2%）が最も多く、次いで「衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる」（62.3%）、「食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する」（57.4%）、「製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる」（45.6%）の順である。

年代別では、有意差は見られない。





問 2 2 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策、消費者モニター活動などで日頃感じていることなど、ご意見があればご自由にお書きください。

計224件の記述回答があり、その内容としては、「コロナ禍における食への不安」、「放射性物質」、「わかりやすい情報提供」、「モニター活動」、「食品表示」に関する内容が多かった。また、福島原発のALPS処理水や風評被害に関する意見も昨年度と比較して多く見られた。

食の安全安心全般については、輸入食品・食品添加物・遺伝子組換え食品・残留農薬に関する意見が多く見られた。(個別の内容は省略)